

## 心血管治療先端医療寄附講座

### 1. スタッフ

特任講師	ほしやま 星山	ただし 禎
客員教授	なかむら 中村	すなお 淳
客員教授	ほきもと 掃本	せいじ 誠治
客員准教授	さかもと 坂本	けんじ 憲治
客員助教	ふじすえ 藤末	こういちろう 昂一郎

### 2. 寄附講座の特徴

メタボリック症候群の急増する社会、高齢化社会の到来に伴い心血管疾患患者は著しく増加しており、循環器臨床において難治性心不全・虚血性心疾患や不整脈に対する診療の充実と発展が必要とされている。心血管治療先端医療寄附講座は、そのような背景をもとに難治性心不全・虚血性心疾患を含む心血管疾患の臨床・研究・教育を遂行する目的で平成 20 年 4 月 1 日に設立された。令和 5 年 4 月から第 4 期目となっている。

なお、当講座のスタッフは内科部門・循環器内科の業務を兼任しており、以下 3. ～7. の内容は循環器内科との協働の業務内容である。

### 3. 診療体制・診療実績

循環器内科と協働で、適切な適応のもとに心臓カテーテル検査（左心・右心カテーテル検査、アセチルコリン負荷試験、冠動脈血流測定、血管内超音波検査、光干渉断層法、心筋生検を含む）・経皮的冠動脈インターベンション（PCI）を施行している。待機的症例に対しては、ほぼ全例血管内超音波（IVUS）を併用すると共に光干渉断層法（OCT）ガイド下PCIも積極的に導入しており、急性期のみならず遠隔期の成績も良好である。ロータブレード、ダイヤモンドバックも高度な石灰化病変、特に完全閉塞病変において有用であり、治療成績向上および患者のQOL改善に大きな効果を発揮している。

### 4. 高度先進的な医療の取組

従来、冠動脈バイパス術でなければ治療困難であった左冠動脈主幹部病変や慢性完全閉塞病変に対しても、積極的にカテーテル治療を施行し良好な結果を得ている。

さらに平成 27 年 6 月から大動脈弁狭窄症症例に対する経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）が施行可能となり、令和 4 年は 1 年間で 62 例の施行件数と増加傾向であった。また structural heart disease に対しては重症僧帽弁閉鎖不全症に対する Mitra clip、閉塞性肥大型心筋症に対する PTTMSA（経皮的中隔心筋焼灼術）、及び心房細動患者における血栓形成予防のために行う左心耳閉鎖術（watchman）も施行可能となっている。

### 5. 研究活動

関連病院と協力して PCI の共同データベースを構築し、手術のリスク分析や併用薬物療法の有用性、予後等を解析して PCI の質の向上を図っている。

冠動脈ステント後に抗血小板薬は必須だが、遺伝的にその効果が変わってくることを報告し、遺伝子多型と抗血小板薬の反応性についても研究を行っている。冠動脈 CT と心筋シンチグラムの融合画像をインターベンション手技に応用する等実臨床上有用な研究も施行している。

また、慢性腎臓病と造影剤腎症・血管内皮機能の関連、小血管に対する有効な冠動脈形成術法、抗血小板療法時の消化管障害、冠動脈疾患と肥満・糖尿病との関連、腫瘍循環器学（cardio-oncology）の分野の研究など、心血管疾患に対して幅広く研究を施行している。

### 6. 医療人教育の取組

解剖学、生理学、病理学、薬理学等の循環器科医師に必要な基礎教育と、診療現場における臨床教育の両者を行っている。研修医・レジデント・若手医師に対して症例検討を中心としたカンファレンスを 3 日/週行っており、診断プロセスの指導、治療時の実技指導も施行している。また、講義、講演、院内ワークショップに加え、院外講師を招いた講演会も開催している。

### 7. 地域医療への貢献

平成 19 年 12 月よりモバイル CCU が稼働しており、循環器救急疾患について積極的に受け入れを行い、病診連携を密にしている。